

経営概要書

法人名：

株式会社 玉川サービス

(株2)

1 法人の概要

代表者職氏名	代表取締役社長 門脇 光浩	所管部課名	観光文化スポーツ部観光戦略課
所在地	仙北市田沢湖玉川字洪黒沢国有林3014林班	設立年月日	平成3年10月22日
電話番号	0187-58-3130	ホームページ	—
主な出資 (出捐) 者	出資(出捐) 者名	出資(出捐) 額(千円)	出資(出捐) 比率(%)
	秋田県	5,000	50.0%
	(株)玉川温泉	3,100	31.0%
	仙北市	1,000	10.0%
	(株)玉川温泉クアハウス生命の泉	900	9.0%
	合計	10,000	100.0%
設立目的	秋田県のリゾート構想に基づき、玉川重点整備地区に民間宿泊施設及び自然公園施設が整備されることから、地区内の県有基盤施設の維持管理や給排水・給排湯施設の整備運営等を目的に、秋田県、仙北市、進出企業の出資により平成3年10月設立。		
事業概要	新玉川リゾート地区進出企業に対する玉川温泉の源泉供給管理及び給排水施設の運営管理、県営施設の指定管理等。		
事業に関連する法令、県計画	「北緯40度シーズナルリゾート秋田」計画(指定区域)		

2 令和元年度事業実績

営業施設が新玉川温泉のみであり、主要収入である水道使用料(企業負担金収入)が減収となったが、除雪車両更新により整備費用の削減ができたことなど経費全般の削減ができたことで増益となった。
水道関連施設については、優先する工事の見直しを行い、経営の安定を図った。

<事業目標>

項 目	区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
ビクターセンター来場者数(人)	目標	10,000	9,000	10,500	10,000
	実績	8,004	10,022	9,080	—
給水量(m ³)	目標	98,000	110,000	110,000	90,000
	実績	105,527	117,591	126,746	—
顧客満足度指数	目標	86	86	87	87
	実績	86	91	86	—

3 組織

①役員数(R2.7.1現在)

(単位:人)

区 分	取締役		監査役		役員報酬
	R1	R2	R1	R2	
常勤	1	1			支給対象者 (R1年度)
内、県退職者					
内、県職員					— 人
非常勤	4	4	1	1	平均年齢
内、県退職者					
内、県職員	1	1			— 歳
計	5	5	1	1	平均報酬年額 (R1年度)
内、県関係者	1	1			
					— 千円

②職員数(R2.4.1現在)

(単位:人)

区 分	R1	R2	正職員
正職員			
内、県退職者			平均年齢
出向職員			— 歳
内、県職員			平均勤続年数
臨時・嘱託	1	1	— 年
内、県退職者			平均年収
計	1	1	(R1年度)
内、県関係者			— 千円

③取締役会回数

平成30年度	5	令和元年度	4
--------	---	-------	---

4 財務

①損益計算書

(単位:千円)

区 分	平成30年度	令和元年度
売上高	29,622	28,740
売上原価		
売上総利益	29,622	28,740
販売費及び一般管理費	29,192	28,029
人件費(売上原価含む)	5,733	5,670
営業利益(損失)	430	711
営業外収益	2	2
営業外費用		
経常利益(損失)	432	713
特別利益		463
特別損失		
法人税、住民税・事業税	167	331
当期純利益(損失)	265	845

②貸借対照表

(単位:千円)

区 分	平成30年度	令和元年度
流動資産	24,924	27,267
固定資産	388	194
資産計	25,312	27,461
流動負債	14,258	15,561
短期借入金		
固定負債		
長期借入金		
負債計	14,258	15,561
資本金	10,000	10,000
利益剰余金等	1,054	1,900
純資産計	11,054	11,900
負債・純資産計	25,312	27,461

※端数処理の関係で合計が一致しない場合がある。

(単位:千円)

退職給与引当状況	要支給額	引当額	引当率(%)

<主な経営指標>

項 目	算 式	平成30年度	令和元年度	増減※
経常収支比率	経常収益÷経常費用×100	101.5%	102.5%	1.1
流動比率	流動資産÷流動負債×100	174.8%	175.2%	0.4
自己資本比率	純資産計÷負債・純資産計×100	43.7%	43.3%	△0.3
有利子負債比率	有利子負債÷純資産計×100			

※端数処理の関係で増減が一致しないことがある。

5 県の財政的関与の状況

(単位:千円)

区 分	平成30年度	令和元年度	支出目的・対象事業概要等
補助金			
委託費	4,818	5,531	基盤施設維持管理業務及び基盤道路除雪業務
指定管理料	4,724	4,620	県営玉川温泉ビクターセンター指定管理
貸付金			
損失補償			
その他の財政支出(基金等)			

I 自己評価

1 公共的役割	2 組織体制	3 事業実施	4 財務状況
A 秋田県の「北緯40度 シーズナルリゾート秋 田」の地域指定を受 け、秋田県で整備した 施設の維持・水道事業 の運営管理を行って おり、公共的な役割を 担っている。	A 主たる業務と兼務であ るが、組織体制は整っ ている。取締役会を法 定回数開催している。	B 事業目標であるビジター センターの顧客満足度 (98.9%)、来場者数 (86.4%)は目標達成で きなかった。給水量 (107.8%)は目標を上 回っている。	A 今期は減収増益ではある が、単年度黒字を達成 し、累積損失もない。

II 所管課評価

1 公共的役割	2 組織体制	3 事業実施	4 財務状況
A 県のリゾート構想に基 づき新玉川地区に整備 をした施設の維持管理 を行っており、また同 地区の施設に対して上 水道の供給を行うな ど、公共的役割を担っ ていると認められる。	B 取締役会は4回開催さ れており、法定回数を 満たしている。常勤の 役員がおり、充て職の 役員も取締役会に出席 している。	B 給水量においては目標値 を上回っているものの、 ビジターセンター来場者 数及び顧客満足度指数に おいて目標を下回った。	A 単年度の経常損益が黒字 であり、累積損失もない ことからA評価とする。

III 外部専門家のコメント

昨年度よりやや減収となったが、車両修繕費が減少したことにより黒字を確保することができた。継続して利益を計上できているが、経常利益自体はここ3年間、156千円、432千円、そして今期713千円と決して高い水準ではない。借入金がなく流動比率も175%と高いため、財務基盤は安定しているようにみえるが、利益剰余金が1,900千円と少なく、まだ十分な状況とは言えない。今後設備の交換や修繕等の支出も予想されるため、収入が伸びないのであれば、黒字を維持していくためにはより一層の経費削減等が必要になると考える。

IV 委員会評価

1 公共的役割	2 組織体制	3 事業実施	4 財務状況
A 三セクの行動計画は「 県出資の経緯や県の 施策上の問題等によ り、直ちに県関与の縮 小・廃止を図ることが 困難な法人」に位置づ けられている。県が策 定したリゾート構想に 基づき、指定地域内の 施設に対する水道及び 温泉の供給等を行っ ており、引き続き安定 した事業実施が望まれ る。	B 常勤の役員はいるが、 常勤の職員はいない。	B 給水量、目標を達成した が、ビジターセンター来 場者数及び顧客満足度指 数の2項目において、8 割以上の水準には達して いるものの、目標値を下 回った。	A 昨年度よりやや減収と なったものの、単年度で の経常黒字を少額ながら 連続して確保しており、 累積損失もない。 将来の修繕計画を見据え ると、現状の利益剰余金 では十分と言えないた め、負担に備え、今後も 黒字を維持していくこと が求められる。

V 前年度委員会評価

1 公共的役割	A	2 組織体制	B	3 事業実施	A	4 財務状況	A
---------	---	--------	---	--------	---	--------	---

評価結果を受けて実施した経営健全化に向けた取組（概要）

主要収入である水道使用料（企業負担金収入）が減収となったものの、除雪車両の更新による整備費用の削減をはじめ経費全般の削減を行い、増益となった。

修繕関係では、計画で予定されていた浄水場の屋根工事や排水処理場ポンプの追加交換等が必要になったが、優先順位を再検討し水道事業の運転に必要な修繕は行いつつ修繕計画の見直しを行うことで経営の安定を図った。